

第 38 回日本死の臨床研究会の記録

大会長講演

1. 輝いて今を生きるために—尊い生と死から学ぶ 山岡憲夫・日浦あつ子

特別講演

1. ホスピスの「奥の間」に迫る 下稲葉康之
2. 「輝いて今を生きるために」とは、どのようなことか 高木慶子
3. 「いま、ここに在る」というプレゼント 石垣靖子
4. 人生の危機とスピリチュアリティ 窪寺俊之
5. 今を生きるコツ 沼野尚美
6. まるごといのち—金子みすゞのまなざしとホスピス 末永和之

特別対談

1. 市民ホスピスの広がり 総合コメント・司会 米沢 慧

教育講演

1. Whole Person Care の目指すもの 恒藤 暁
2. がん看護における倫理的問題—緩和ケアにおける倫理的ジレンマ 濱口恵子
3. スピリチュアルペインとケア—そのより良き理解のためにスピリチュアリティを定義する 山崎章郎
4. がん患者のせん妄へのスピリチュアルケア—実存的身体からのアプローチ 村田久行
5. 人生の最終段階への“おもてなし”に求められること—援助を言葉にする 小澤竹俊

シンポジウム

1. 多死社会に向けて—end of life を考える 総合コメント・司会 蘆野吉和・梅田 恵
社会保障制度改革と医療・介護連携の必然性—end of life を考慮した真の地域包括ケアとは 千田 透
亡くなるまでよりよく生きる—本人の生き方に向き合う医療を目指して 永井康徳
超高齢多死社会における地域包括緩和ケアについて 矢津 剛
“暮らしの中で逝くこと”を支える—ホームホスピスかあさんの家の実践から 市原美穂
2. ホスピス緩和ケアのこころ 総合コメント・司会 志真泰夫・二見典子
「混沌の語り」に向き合う 田村恵子
緩和ケア医として、ホスピス医として、人として 林 章敏
ホスピス緩和ケアのこころ—ホスピスマインドに基づくスピリチュアルケア 清田直人
3. 死んだらどうなると聞かれたら 総合コメント・司会 田畑正久・長澤昌子
医学系看護系で死生観、スピリチュアル教育を 大下大圓
いままでは他人が死ぬとは思ひしが俺が死ぬとは… 平川義雄
死後のことについて考えてみるために 谷山洋三
宗教を持つ看護師と福祉士の考え方 柴田 実
4. 地域緩和ケアネットワークの広がり 総合コメント・司会 本家好文・関本雅子
在宅・病院医療チームが協働で支える—どう生きたいかに伴走する 宇都宮宏子

患者と家族の気持ちと暮らしをつなぐ連携のために	田村里子
今、あらためて看取りを考えるーホスピス・在宅・拠点病院での経験を通して	小林秀正
在宅看取りを支える訪問看護	平野頼子

パネルディスカッション

- | | |
|--|--|
| 1. 明日を支える人を育てるために
「死の準備教育」で思うこと
医療系学生へのいのちの授業
途上国でいのちを守る闘いーバングラデシュに看護学校を
良医を育てるための試み | 総合コメント・司会 佐藤 健・徳丸定子
五十嵐雄道
高宮有介
小畑麻乙
堂園晴彦、他 |
| 2. いのちの輝きー障がいと共に
障がいの世界からの問いかけ
コミュニケーションの発達に関わる立場から
人は人を人にする
幸せの かたち | 総合コメント・司会 武田康男・阿部まゆみ
武田康男
大指望美
大越 桂
濱岡一枝 |
| 3. 家に帰りたい患者に疲弊している家族の支援
患者・家族がもつ力を発揮できる看護ケアをめざして
困る患者・困った家族・困っているスタッフ
ー誰が問題？誰の問題？何に困っている？何を求めている？どうなればいいのか？
エコロジカル・ソーシャル・システムから患者・家族を捉える視点 | 総合コメント・司会 塗木京子・田中まゆこ
長戸和子
井上実穂
福地智巴 |

セミナー

- | | |
|---------------------------------------|-----------|
| 1. 燃え尽きないため、看取りの意味を探る | カール・ベッカー |
| 2. サポートブックを活用し、親と子の絆を高める緩和ケアコミュニケーション | 阿部まゆみ |
| 3. 医療者のグリーフー私たちにケアは必要ですか | 下稲葉かおり |
| 4. 健やかに生き、安らかに逝く | 桑田美代子 |
| 5. いのちのバトンタッチ | 木許ひなの |
| 6. ホスピスへの遠い道ーマザー・エイケンヘッドから市民のホスピスへ | 米沢 慧・隅崎行輝 |

フォーラム

- | | |
|--|-----------------------|
| 1. 輝いて生きるサバイバーの底力
輝く命のリレー
患者だから伝えられることーいのちの授業・ピアサポートを通して
闇を知るからこそその輝き | 坂下千瑞子
三好 綾
上野 創 |
|--|-----------------------|

ワークショップ

- | | |
|---|--------|
| 1. 看取りのケアのクリニカルパス
ーLiverpool Care Pathway 日本語版の現在とこれから | 茅根義和、他 |
|---|--------|

教育研修ワークショップ

- | | |
|-------------------------------------|------|
| 1. 死の臨床におけるコミュニケーションースピリチュアルケアを目指して | 馬場祥子 |
|-------------------------------------|------|

ご当地セミナー

1. フクロウの音がきこえる 中谷健太郎

市民公開講座

1. 「生き方死に方」…元気に笑って歌って 柏木哲夫

震災関連特別企画講演

1. 東日本大震災から学ぶ 村上雅彦
2. 東日本大震災と復興教育授業 笹原留似子

国際交流広場

1. 悲しみに沈む人々に寄り添って—これからの展望と課題 アルフォンス・デーケン

企画委員会主催シンポジウム

1. 「真の援助者を目指して」—感性を磨く 納賀良一、他

特別事例検討

1. 急性期病棟での看取りにおける信念対立
—終末期せん妄を発症したがん患者と家族への医療スタッフの関わり 長谷川貴昭、他
2. 病気や死を「受容する」とは？ 清水冨果

事例検討

1. 思いを表出しない10歳代の思春期の子どもへのグリーフケアを考える 木村亜希、他
2. 壮年期胃がんの男性、最期まで自らの人生を選択
—本人・家族の希望を叶えるための作業療法士の援助 東谷成晃
3. 施設において、認知症の母親が障害をもつ末期がんの娘の旅立ちに間近で寄り添い、
死を受け入れた1事例 三浦雅美
4. 予期悲嘆反応をおこした家族への意思決定支援—予期悲嘆の心理プロセスを用いて 志方優子、他
5. 家族ケアが難渋した1症例—医療者への要求が多い家族との関わりを通して 吉田優子、他
6. 高齢の末期がん患者と離れて暮らす家族への援助 福田麗子、他
7. 緩和ケア病棟入院翌日に急変し看取りを迎えた1事例
—医療者は何を考え、家族は何を思うか 村上真基、他
8. 「家にいた方がよっぽどいい。期待してここへ来たのに」と泣きながら訴えた
患者と家族への関わり方 江頭陽子、他
9. せん妄の対応に苦慮しながらも在宅療養継続できた1事例 春日みゆき、他
10. 子どもの回復を最期まで望む父・姉に寄り添うスタッフの葛藤
—移植後に突然意識障害をきたした思春期男児 緒方綾乃、他
11. 患者相互関係において看取りまで寄り添うことの意味
—患者が患者を看取った事例への看護介入を通して 萩谷翔太
12. 終末期がん患者の希望を支えるケア—代理で意思決定をした家族への関わり 加茂美奈子
13. 最期まで「食べる」ための関わり
—家族の要求に応じて、いつまで食事提供を続けるべきか悩んだ事例 上杉梨沙、他

- | | |
|---|---------|
| 14. 外国籍家族が子どもの死に直面した時医療者のできること | 金井理恵、他 |
| 15. 「今日吐いたらあんたのせいやで。」—看護師が暴言を認めることの難しさ | 関根未来 |
| 16. 繰り返し化学療法を受けた青年期の血液がん患者の父親への関わり
—父親が息子の傍に行けない理由とは | 田儀真由美、他 |

原著

- | | |
|---|-------|
| 1. 子育て期間中に妻との死別を体験した父子家庭のニーズおよび社会的支援の課題 | 倉林しのぶ |
|---|-------|

調査報告

- | | |
|---|---------|
| 1. 子どもを亡くした遺族のケアを体験した看護師の認識と行動 | 大久保明子 |
| 2. 終末期がん患者とその家族への在宅療養における支援内容とその評価—遺族のインタビューから | 岡本双美子、他 |
| 3. 緩和ケアのエキスパートナースによる終末期がん患者の倦怠感に対するケアのプロセス | 池内香織 |
| 4. がん患者を親にもつ子どもへの親の病状説明とグリーンケア—がん専門病院看護師調査から | 小島ひで子、他 |
| 5. 壮年期の夫との死別が妻の人生に与えたポジティブな影響
—死別後の生活の支援要因と夫との関わりに視点を当てて | 笛木鮎子 |
| 6. 緩和ケア認定看護師の捉えるスピリチュアリティ | 井出 訓、他 |
| 7. 看護学部生のターミナルケアに対する態度の変化—FATCOD-B-J と学部生の主観から | 糸島陽子、他 |
| 8. 緩和ケア病棟における遺体トラブル発生予防に向けたエンゼルケアの評価
—葬儀社に対する調査から | 渡辺礼子、他 |